

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 161 号)

発行日：2020 年 (R2) 12 月 16 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788  
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail：[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)



コロナ禍第3波襲来！と言いながら、未だに実感がないのは危機意識の欠如でしょうか？マスク、手消毒は徹底しているものの、目に見えないものには油断が。

一方、医療崩壊が近い？と言われていています。宝塚市や三田市でも感染者が増えているようです。他人事ではない現実。しかしやはり平和ボケ？

ワクチン接種も年明けには始まりそうですが、副反応の問題もあるようで…。予防には欠かせないと思いますが、体に入れるとなると考えてしまいます。でも、マスクしながらの会食もどうなんだ？やはり接種か？多くの人が接種してから？これもズルイような気がします。

加えて鳥インフルエンザ。何万羽もの鶏が殺処分。生き物を「処分」というのも悲しい。しかし新たなインフルエンザが誕生しダブルパンデミックの危険も。野鳥がパンデミックにならないのはやはり密度か。鶏卵・鶏肉の恩恵にはあずかっていますが、超過密状態の飼育が最大の原因？

やはり、人類も過密すぎる？ちょっとシュール。

(今住 12月15日作成)

## 定期活動

### ★11月22(日) 定期活動 12名で活動 入口～ポスト歩道周辺ササ刈り

作業はササ刈り。湿原内の又マガヤ刈りもそろそろかと思われそうですが、まだウメバチソウの種が残っているようです。湿原内の作業は12月末から実施予定。周囲のササ刈りはほぼ終了していま



ネザサが伸び伸びと



作業後 ちょっと引きの画像

にやるのは主義に反しますが、たまにはいいか？湿原刈り取りへのウォーミングアップか。手作業組も秘密兵器を携え黙々と。枯れ枝処分

すので、かなり効率の良い作業力ができると思います。

で、本日のササ刈りは駐車場から竹筒ポストまでの歩道脇の作業です。ここ数年、刈り取りせずに放置していたのですが、さすがにササやタケが覆いかぶさってきました。刈り取りしなかったからか、秋にはツルニンジンやトキリマメなどが確認できました。歩道下平場の片付けも目処が立ってきたこともあり、1度刈り取りすることに。

道際だけのつもりで作業を始めましたが、つつい奥へ。ササが無くなるまで進んでいきます。

ほとんど休憩も無し。こんなに真面目



奥へ奥へササを求めて



秘密兵器 ササの種類は？





ウグイスの巣？ 多分



すごい スッキリ！



毛が密生した萼片

丸裸のヤブムラサキ

cm高さ18mぐらいか？）現在相談中です。

も。アリマコスズが若干刈り取られますが、ネザサをやっつけるのを優先。明るいエントランスとなったようです。

刈り取り途中には、**藪が大好きなウグイスの巣（多分）発見**。もう使っていませんが、道のすぐ近くで子育てというのが不思議です。これも実は作戦だったりして。**ササ藪の刈り取りはウグイスの巣場所を無くすのでは？**という方もおられますが、現在このような藪はそこら中にあり、ウグイスが減っているという話も聞いたことがありません。全体のバランスを考えて作業しようと思います。

今回は刈り払い機4台出動です。さすがに機械が多いと作業が早い。とてもまじめに作業した結果、かなりロケーションが開けました。

刈り取った後には**ヤブコウジ（藪柑子=十両）**が実をのぞかせていました。**ヤブムラサキ（藪紫）**も完全に実のみ。**ビロード状の葉が無くても、実の下に毛が密生した萼片（がくへん）があれば間違いなし。**

続いて以前から気になっていたナラ枯れの木。今回作業した山側斜面にかなりの大木が。2つに分かれています。大きな幹の方は枯れて約3年。そろそろ倒れる可能性も。歩道のすぐ上。丁寧な処理をしたいと思っています。（コナラ径約60



ササ下からヤブコウジ（十両）



ナラ枯れ木

枝が落ちても危険ナラ枯れ木

### 特別活動 ★12月4日（金）新入会員の要望で、刈り払い機講習（たいそうですが…）

新入会員さんからの連絡で、「作業の練習をしたいが、あまり参加が出来ないのでピンポイントの日に」と。これから又マガヤ刈りが始まるので「刈り払い機講習」を、とりました。なんとまじめな会員さんでしょう。ステキ！



ぎこちない練習初期

しましたが、ずいぶん前に無くなっているようです。（技術科は男子のみの授業やったような。女子は家庭科。）授業であっても興味が無かったらなんでも忘れるもの。しかし、**ガソリンを間違えると「エンジンが焼け」完全につぶれてしまいます。ご用心を！**

農家なら何でもない刈り払い機ですが、触ったことのない人にはエンジンのかけ方からわからないもの。燃料も2サイクル用「混合ガソリン」???。私の中学校時代には技術の授業で「内燃機関」として2サイクルエンジン・4サイクルエンジンを学習



あっという間に職人さん



プライマリーポンプ、チョーク、リコイルスターター、ベルトの高さ調整、回転数、刈り取り方向、スピード、草の寄せ方などをレクチャー。横文字が並びましたが、ちょっと慣れば名前は意味がない。忘れます。修理する時に知っていれば便利な程度。すぐにコツを掴んでササ刈り・ヌマガヤ刈りを少々練習。後は、本番の刈り取りに来られる（可能か）かどうか。しかし、スキルとして持っていれば即戦力。期待します！運び出しでも若さは即戦力で～す。あっ！お年を召した方も即戦力ですので誤解のないようお願いいたします。作業する人がいなくなりますから…。

### 宝塚市からの消耗品支給

今年も宝塚市から消耗品が支給されました。「丸山湿原群」は兵庫県の天然記念物ですが、「宝塚市の天然記念物」でもあります。（県天然記念物になる前提条件）毎年消耗品を現物で支給していただいています。今回は革手袋とレーキ（草集め用）。



レーキ

イバラやササ、木などを扱う作業には革手袋が安全。しかし、結構値が張るので消耗品としての支給は大変助かります。今回は女性用にSサイズを充実させました。安全に作業ができそうです。ありがとうございます。

レーキは、熊手（西谷では「さらえ」）よりも丈の長い草集めに便利。地面にひっきりやすい（地ならしにも使うもの）のですがササ集めや、ヌマガヤ集め使うと疲れ方が違います。以前にも1ついただいています。有効に使っていきたいと思います。財政状況厳しい時にありがとうございます。



Sサイズ革手袋

以前にも1ついただいています。有効に使っていきたいと思います。財政状況厳しい時にありがとうございます。

### 定期活動 ★12月12日（土）定期基礎調査 14名で活動（オブザーバー1名含む）

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
丸山	31	31	入口	10:02	13.8℃		
ハイキング	0	16	第3湿原	10:30	【9.9℃】	40.3 μS/cm	6.8
散歩・登山	36	36	視点場	10:42	16.8℃	33.0 μS/cm	6.8
			第1湿原	10:53	【8.9℃】	36.4 μS/cm	6.7
			第2湿原	11:18	【8.5℃】	37.2 μS/cm	6.6

来場者数 計 150人  
(竹筒ポスト人数)

やはりコロナで皆さん行くところがないのか 14名もの参加の基礎調査・観察となりました。気分は初冬のハイキング。落葉を落とした里山は光が柔らかく入りとても気持ちが落ち着きます。空



長T1枚で測定中

参加。かたや、大人はダウンジャケット。暖かいといっても1枚は無理！若さとは恐ろしいものだ…。みんな昔は若かったはずなんです。「監

気もシャキッとした感じ。しかし気温は結構高い。

温度計の調子も変なような…。最近計器の不調か信用できない値がちらほら。せっかくのデータ収集がまちがいであまりにも悲しい。もう一度アナログに戻せば？という意見も。デジタルは便利なんですがね。

気温が高いのは間違いのないようで、「監督」は長袖Tシャツ1枚での参加。



こんな立派な冊子配布中





インフォパックに冊子とパンフ  
大変立派な冊子で丸山湿原についての基礎情報が網羅されています。早い者勝ちで無料配布中。インフォパックからお取りください。設置場所は3か所。無くなっていたらごめんなさい。在庫分はお配りしますので、どうしてもという方はご連絡ください。

督」あなたも歳はとりますよ。でもうらやましい。  
この日はパンフレット補充。さらに阪神北県民局からいただいた初期の「丸山湿原」冊子をインフォパックに入れました。  
**湿原の成り立ちや、確認できた動植物の目録付きです。ただし、作られたのは2014年(天然記念物指定前)。今見つけることができないものも記載されています。作成後に見つかり記載されていないものもあります。**



これぞ生物多様性 カウント中

湿原はすっかり冬。とっていたら、まだ頑張っているのが姫様です。ヒメアカネ(姫茜)頑張るな〜。普通12月に入るとなかなかお目にかかれない。寒さが続かないので生き延びているので



ヒメアカネいつまで飛べますか？

しょう。ほとんどがみ。赤トンボらしくていいですが。何度も言いますが、アカネ属最小。つい「ハッチョウトンボ？」と声。ハッチョウトンボは8月末にほぼ消えます。今はヤゴ。ヒメアカネも冬は越せません。トンボで越冬するのはオツネントンボ(越冬蜻蛉)・ホソミオツネントンボ(細身越冬蜻蛉)・ホソミイトトンボ(細身糸蜻蛉)の3種。いずれも西谷で見ることができますが、丸山湿原ではホソミオツネントンボを確認しています。いずれもイトトンボ(均翅亜目)の仲間。あんなひ弱なトンボが氷点下を裸？で乗り切るのは驚きです。チョウ類も結構越冬します。自然は不思議。



刺激は危険ツヤアオカメムシ

越冬といえば、家でも越冬するカメムシ。こちらもありました。枯葉の裏。緑色が美しい！刺激は禁物。最初アオクサカメムシ(青臭亀虫)と思ったのですが、調べてみるとツヤアオカメムシ(艶青亀虫)。屋内で飛んでいてもそんな種類は関係ありませんが、違うんです。背中の横線部分に白い点々がない。触覚(写真の子は一本なし)に黒い筋が2本、で見分けるそう。本来南方系のカメムシだそうで、温暖化に伴い北上中らしい。他にもいろいろ北上中はあるとか。「平年並みの寒さの年」を「厳しい寒さの年」と言ってしまう近年。やはり危機的状況か？



王様の風格 オオウラジロノキ酒  
ラジロノキ酒を開けたそうです。感想は「『果実酒の王様』と期待しすぎなければ十分美味しいと思います。」だそうです。機会があればお試しく下さい。

植物ではウメバチソウ(梅鉢草)がほいつまで咲くの？梅ちゃん  
んとに最後の花を咲かせていました。これもびっくりでした。しかも雄蕊はまだ元気。種を残せるか？

最後に会員からの報告。「至福の果実酒」といわれるオオウ

**次回活動** 27日(日)午後納会? 2020年1月9日(土) 24日(日) 2月13日(土)